生産者

法人化が進む土地利用型農家の複合経営の一環として加工・業務用野菜の生産
～西美濃農業協同組合（岐阜県）～

1　組織の概要

組織名称	西美濃農業協同組合
組織形態	農業団体
代表者名	代表理事組合長　小林　徹
所在地	岐阜県大垣市東前町955-1
連絡先	ＴＡＣ室　室長　稲川益章
販売額	加工・業務用キャベツ　49,063千円（令和4年） 加工・業務用タマネギ　7,661千円（令和4年）
取組者数	加工・業務用キャベツ生産者　29人（令和4年） 加工・業務用タマネギ生産者　9人（令和4年）

2　取組の推移

昭和41年	「西南濃」（たまねぎ）が野菜指定産地に指定。
平成22年	加工・業務用タマネギの生産開始
平成23年	加工・業務用キャベツの生産開始
平成27～30年	加工・業務用野菜生産基盤強化事業（国）の活用

3　加工・業務用野菜の取組概要

(1)基礎情報

取扱品目	キャベツ(令和４年実績)	タマネギ(令和４年実績)
作付面積	55ha	7ha
出荷量	1,080t	128t
出荷時期	11月～3月	5月～7月
主な出荷先 （主な用途）	全農岐阜県本部 （中京圏を主としたカット野菜工場等複数実需者）	
出荷形態等	鉄コンテナ	
取引先からのニーズ	出荷期間中の出荷量の平準化と安定した品質	

(2)取り組んだきっかけ

ＪＡ西美濃管内では、土地利用型農家の法人化が進んでいたが、それら農家の複合経営の一環として、平成22年から加工・業務用タマネギの生産を開始。取組当初から土地利用型農家等へ対して研修会や先進地域の現地視察等を通じ、生産者への取組提案を続け、加工・業務用野菜の生産拡大を図ってきた。

(３)取組の特徴

①全農岐阜やJA出資子会社が実施する農機レンタル事業を利用し、機械化作業体系の確立や加工・業務用に適した優良品種の導入。（現行キャベツ5品種、タマネギ3品種）
②ＪＡ独自の栽培歴を作成し、適期作業や定期的防除を実施。
③平成26年から大型鉄コンテナによる出荷を開始。

(４)関係機関の支援

①全農岐阜県本部による大型鉄コンテナ、農機（移植機・収穫機等）のレンタル。
②全農岐阜県本部がタマネギ選別機を導入。
③加工・業務用野菜生産基盤強化事業（国）（平成27～30年）

4　販売先の開拓

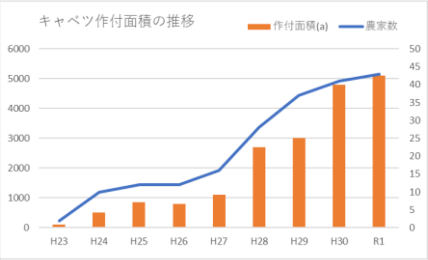
全農岐阜県本部が販売先を確保。全量を全農岐阜県本部を通じ実需者へ販売。

5　課題とその対応

①出荷期間中の出荷量の平準化と品質の安定化という要望に対し、地域に適した品種を導入し、出荷期間の平準化と生産者の作業の分散化を図った。
②計画的な出荷を行うため各農業者とＪＡ・全農岐阜との間で出荷契約を締結している。

6　取組成果

①土地利用型農家の複合経営への取組みにより、地域の雇用増加にもつながっている。
②実需者側も近くのＪＡからの入荷が増え、輸送効率やコストを抑えるメリットがあった。



7　今後の展開

加工・業務用野菜は、計画的な生産・出荷と安定的な収量・品質の確保が重要であり、産地としての信頼を高め、実需者との更なる契約拡大を図る。